

アンリエットの転地療養日記

岸田國士

青空文庫

二月三日（水曜）曇

いよいよ巴里^{パリ}を離れることになった。

朝八時、タクシイで、ケエ・ドルセエの停車場に行く。寒い。

病気で転地療養をするのに、大袈裟な用意なんかする必要はないといふパパの意見。

それでも、あゝいふ人の集るところだから、トアレツトのひと通りはといふママの意見。
ルイズ叔母さまも、ママの肩をおもちになる。

汽車の中で、正午の体温を計る。三十七度四分、気分はいゝけれど、顔がほてる。ママ
がのべつに「大丈夫かい」「大丈夫かい」つておつしやるもんで、ほかの人達がぢろぢ
ろあたしの顔を見て困る。ママの膝にもたれて眠つたふりをしてゐる。

ポルドオに着いたら、日が暮れてゐた。乗換の時、前にゐた亜米利加^{アメリカ}人が荷物をおろし
てくれる。

二月四日（木曜）晴

朝、寝台車の窓から、霧に包まれたピレネエの山が見える。

七時、ポオに着く。はじめて、カメラヤが咲いてゐるところを見る。

外套を脱ぎたいほどの暖かさ。日光が眩しい。

馬車で、町はづれのサナトリウム・サン・モオルへ行く。

あたしたちが案内されたのは、西班牙スペイン風の建物の下の一室で、建物の入口には、ヴィラ

・セリユバンといふ札が出てゐる。

二月十八日（木曜）雨後晴

今日はじめで、一人で散歩をする。

公園へ行つて孔雀が飛んでゐるのを見たり、野菜市場で聞きなれない土地の方言に耳を傾けたりする。

それから、アンリ四世のお城をひと廻りして、ホテル・ド・ラ・フランスの前まで来ると、ぱつたり、ムツシユウ・ロベエルに遇つた。明日、馬車で、「微笑ヴァレエ・スウリヤントみの谷」へ連れてつてやるとおつしやる。

ムツシユウ・ロベエルは、詩を書いてらつしやるだけあつて、美しい「微笑みの谷」の眺めを、眼に見えるやうに説明なさる、言葉ははつきり覚えてないけれど、冬の眠りから醒めようとする自然が、微笑みをもつてわれわれを迎へてくれる、明るい、懐かしい

谷の名だといふお話。

帰つて、ママにそのことを云ふと、あたしの顔をぢつと見つめながら、「あたしも一緒に
行つてよければ……」とおつしやる。

二月二十七日（日曜）晴

急に巴里に帰ることになつた。

熱は下つただけれど、院長さんはもう少しゐた方がよからうとおつしやるのを、なぜ
だか、ママは是非今日発たうと言つてきかない。それが昨日の話。

あたしはもつと此処にゐたい。一生でもいゝからゐたい。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集21」岩波書店

1990（平成2）年7月9日発行

底本の親本：「令女界 第八卷第二号」

1929（昭和4）年2月1日発行

初出：「令女界 第八卷第二号」

1929（昭和4）年2月1日発行

入力：tatsuki

校正：門田裕志

2007年11月14日作成

2016年5月12日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

アンリエットの転地療養日記

岸田國士

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>